

## 第2回瑞穂市地域公共交通会議・会議録

日 時 平成23年11月9日(水)  
午前9時30分から午前10時30分

場 所 瑞穂市役所穂積庁舎 3階大会議室

出席委員 会長 倉内 文孝 副会長 迫田 義一  
富田 尚之 山田 芳喜  
野田 寧宏 西村 盛夫  
梅田 吾朗 棚橋 和子  
藤橋 光男 古田 勝  
伊藤 靖 三ツ村 秀樹  
福富 保文 奥田 尚道  
澤原 鹿人

日比野 幸彦(岐阜乗合自動車株式会社 富田 尚之 付添)

欠席委員 森嶋 和美

事務局 総務部長 早瀬 俊一 総務課長 高田 敏朗  
総括課長補佐 伊藤 巧 主査 井上 源英  
主事 森 大剛

傍聴人 1人

### 1. 開会

(事務局)

只今から第1回瑞穂市地域公共交通会議を開催いたします。委員の皆様におかれましては、大変お忙しいところお集まりいただきまして誠にありがとうございます。後ほど、会長に議長をお願いいたしますので、それまでの間、進行役を務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

### 2. 委員の委嘱

<市長から委嘱状を交付>

### 3. 市長あいさつ

みなさんおはようございます。第2回瑞穂市地域公共交通会議を案内させていただきましたが、先ほど、皆様には委員を委嘱させていただきました。遠いところ足を運んでいただきありがとうございます。瑞穂市では公共交通としてコミュニティバスを運行しており、運営に対して厳しい状態で費用対効果を考えますと他の自治体同様に頭を悩ましているところでございます。瑞穂市では平成22年度実績で年間およそ58,000人の利

用者があり、年間で市民一人あたり1回ほど利用している計算になります。行政の役割は住民福祉の向上と地域社会の発展であり、福祉の向上は住民の満足度と言えます。そういった中の一つが公共交通であります。みなさまにご審議いただきたいと思ひまして、この公共交通会議を開催いたしました。瑞穂市の公共交通を円滑に運営するために、忌憚のない意見をいただきたいと思ひております。瑞穂市の行政に対してご支援をいただいておりますことに感謝を申し上げまして私の挨拶にかえさせていただきます。今日はみなさんありがとうございます。

<会長、副会長の選任について>

(事務局) 会長及び副会長は、瑞穂市付属機関設置条例第7条の規定により、委員の互選により定めることになっております。立候補または推薦がありましたらお願いしたいと思います。

(野田委員) 前任者の岐阜大学倉内先生、商工会長の迫田さんは公共交通に対してご理解が深いと思ひますので、会長に倉内さん、副会長に迫田さんを推薦いたします。もしみなさん何か他にありましたらご意見お願いします。

<一同同意>

みなさん同意いただきましたので、会長に倉内委員、副会長に迫田委員をお願いします。それでは、倉内会長よりごあいさつをお願いします。

#### 4. 会長あいさつ

みなさんおはようございます。岐阜大学の倉内です。ちょうど昨日で前回の委嘱が終了したということで2年が経過したということになります。今日からまた心機一転ということで、今日の議題も穂積・リオワールド線という大きな課題になるかと思ひます。みなさんのご協力をいただきながら、私も努力いたしますので、瑞穂市のコミュニティバスをよりよくしていきたいと思ひますのでよろしくをお願いします。さきほどの堀市長の話のなかでも出てきましたが、他の市町でもコミュニティバスに苦勞している、あるいは費用対効果ということを見るとなかなか難しいことがあるということでした。効果ということは何だろうかということで、住民福祉の向上が目的であるというをおっしゃられていましたが、これをどういうふうにして効果としてとらえていくかということが大事だと思ひます。もちろん乗っていただくことに越したことはないのですが、お金がどれくらいかかるかということだけで評価してはいけないと思ひます。使える税金は限られているのですから、みなさんで議論していきながら限られた予算の中でよりよいものを作り上げていきたいと思ひます。

#### 副会長あいさつ

おはようございます。前回に引き続いて副会長の命を受けました迫田でございます、会長と一緒に住民のためになるようにみなさんと進め

ていきたいと思えます。よろしくお願ひします。

## 5. 議事

(会長〔議長〕) みなさん、よろしくお願ひします。

本日は傍聴されるかたがいらっしゃいますので、入室していただきます。傍聴人は、「瑞穂市審議会等の会議の公開に関する要綱」第3条を遵守していただきますようお願いいたします。

〈会議に関する事項〉

- ・会議録の要点筆記
- ・発言委員の氏名公表
- ・会議録の確認は会長と副会長で行う

それでは、議事に入る前に新しい委員の方も見えますので、前回の会議の内容の説明を事務局からお願ひします。

(事務局) **資料1**をご覧ください。前回の議事内容は、穂積駅南口ロータリーに路線バス(穂積・リオワールド線、大野・穂積線)の乗り入れについてでした。資料の図が現在のみずほバス、路線バス、朝日大学スクールバスの乗降場所になります。路線バスの乗り入れについては、平成23年10月1日より実施しています。

**資料2**をご覧ください。送迎の車が多い時間でバスが駅南口ロータリーに乗り入れたときを撮影しました。乗り入れの状況で今までの所、問題なく運行できています。引き続き、継続して状況は注視していきたいと考えています。

(会長〔議長〕) 確認したいことがあります。この状況が問題になったときは評価していくことが重要になってくると思えますが、今の報告は現在の速報であって、もし何か問題等があった場合は整理をして、この会議に報告していくという認識でよいでしょうか。

(事務局) はい。そのような場合は会議に報告させていただきます。

(会長〔議長〕) この路線バスの乗り入れについては、利便性の向上をという目的で実施したので、その検証の報告もしていただきたいと思っております。何かご意見等ございますでしょうか。

(梅田委員) 送迎車に対する注意喚起はされたのでしょうか

(事務局・部長) 資料2の写真のとおり朝、夕方から夜と車が多いということで現場を見てきましたが、送迎車の影響でバスの運行時間に支障することはありませんでした。前回の会議ではいろいろな方法を用いて行ってはどうかとの意見がございましたが、ホームページ、広報でお知らせをしました。

(会長〔議長〕) もう少しデータをそろえてからこの会議で議論を進めていきたいと思  
います。それでは議事に入りたいと思います。穂積・リオワールド線に  
ついて説明をお願いします。

(事務局・部長) **資料3**のみずほバスの路線図をご覧ください。穂積・リオワールド線  
の停留所は「穂積駅」、「瑞穂市役所前」、「穂積駅西口」、「旭化成」、「十  
九条西」、「古橋」、「巢南庁舎」、「田之上北町」、「森」、本巢市の「下福島」、  
「リオワールド」、瑞穂市に戻って「七崎」、「居倉」、「西小学校」、「唐栗  
口」、「田之上」となっています。路線途中の「井場」、「花塚公民館」、「十  
九条東」はコミュニティバスの停留所であり、穂積・リオワールド線  
では停車していません。穂積駅から瑞穂市の中央を経由して巢南地区を運  
行する路線です。前回の会議でも少しお話させていただきましたが、廃  
線にしたいとの申し出がありました。そこで6月と10月に乗降客調査  
を行い、結果を基にして市議会とも調整を図り平成24年4月1日  
からはコミュニティバスとして運行したいと考えております。そのためコ  
ミュニティバスは4路線となります。

穂積・リオワールド線は、本巢市の停留所「下福島」、「リオワールド」  
と2箇所ありましたので見直す予定でした。しかし、「森」停留所から「居  
倉」停留所まで瑞穂市内にバスが運行できる道路がないということ、リ  
オワールドで利用される方がおよそ4分の1ということもあり見直しは  
しないとのことになりました。また、穂積庁舎と巢南庁舎を結んでいま  
すし、利用者もみずほバスを含めて一番多いこともあり残していきたい  
と思います。

そこで存続することになるときに必要な負担金についてです。みずほ  
バス3路線に対して3,660万円、穂積・リオワールド線に対して5  
20万円すでに負担しており、この状況を考えますと穂積・リオワ  
ールド線の赤字額をすべて負担するのは非常に厳しいと考えます。穂積・リ  
オワールド線に対する負担金をみずほバスと同額にしたいのですが、そ  
の場合は現在の9便から6便にしなければならない状況です。

また路線の名称につきましては、現在、リオワールドはLCワールド  
本巢に変更となっておりますが、名称の変更手続きには多額の費用がか  
かるとのことでしたので、平成24年3月31日まではこのままでいき  
たいと思います。平成24年4月1日からは仮称ではありますが、「瑞  
穂・北部線」として運行できないかと思っています。LCワールド本巢に  
は事前に説明済みです。

今後の方針としましては、4路線で運行となると市内をおおむね網羅  
できるため、現状のまま継続していくということも考えられますが、費  
用対効果を考えますと3路線に再編するという考え方もありますので、  
見直しの準備に取りかかっています。来年の秋ごろまでには新路線を提

示して平成25年4月には運行という形に持っていきたいと思います。今日の会議では来年4月1日からは先ほど申し上げたとおりでいききたいということです。

(事務局)

資料3をご覧ください。穂積・リオワールド線は路線バスの1つであり、1日9便運行です。時刻表は資料の下にあります。この路線バスは瑞穂市北西部の公共交通空白地帯を運行しています。この路線バスをコミュニティバスとして運行するにあたり、停留所は3箇所増加することになります。というのも「井場」「花塚公民館」「十九条東」に今までは停車していませんでしたが、コミュニティバスとして運行するためにこの3箇所も停車していきたいと考えているためです。

資料4、5をご覧ください。6月と10月に乗客の調査を行った結果です。穂積・リオワールド線は穂積駅中心の利用となっており、高齢者のかたは利用が少ない結果でした。また、この路線は穂積駅⇄リオワールドの利用が非常に多く、通勤もしくは通学利用となっていることがわかりました。

資料6をご覧ください。穂積・リオワールド線の利用者推移になります。平成23年度につきましてはまだ上半期の実績だけなので、その人数を2倍にして作成しています。また、平成21年10月1日より1日14便運行から9便運行に減便した影響もあり利用者は減少しています。ここで追加の資料としてお渡ししました、みずほバス等利用状況についてをご覧ください。みずほバスと穂積・リオワールド線の1日平均の利用者と1便平均の利用者は、利用者が大きく減少しているとはいえ、穂積・リオワールド線が一番多い状況にあります。公共交通という市民のかたの足を守るために存続させたいと考えますが、運行にかかる赤字額をすべて負担することは難しいので、9便から6便に減便させたいと思います。具体的にどの便を減便させるかということになります。

資料7をご覧ください。現在の9便運行になってからの各便の月別の利用者数推移になります。各月の一番利用者が少ない所はグレーで表示しました。平成23年度の実績を見ると利用者が少ない便は、18:40 発や14:45 発です。

資料8をご覧ください。各便の一年間の利用者数を表とグラフにしました。平成23年実績より7:00 発の便が利用者が多く、14:45 発や18:40 発が少ないことが分かります。下のグラフは乗客の調査を行った時の時間帯ごとの利用者をグラフにしました。穂積・リオワールド線では高齢者のかたの利用が少なく、6月調査時では20%、10月調査時では12%利用でした。本田・馬場線では35%、牛牧・十七条線では51%、鷺田・船木線では26%の高齢者利用がありました。

平成24年4月1日からの変更点は4つになります。

① 路線バスではなくコミュニティバスとして運行すること

- ② 停留所を3箇所増やすこと「井場」「花塚公民館」「十九条東」
- ③ 路線名を「(仮称) 瑞穂・北部線」にすること
- ④ 9便から6便運行にすること

具体的にどの便について減便していくかについては、事務局案としては、利用者の少ない14:45発、18:40発、通勤・通学利用者のことを考えて13:00発を減便してはどうかと提案します。

(会長〔議長〕) 何かご意見ございましたらお願いします。

(梅田委員) リバーサイドモールの営業がなくなってからの利用者はどうなのでしょう。来年4月からもリオワールドまで運行することでよいのでしょうか。

(事務局) はい。4月からもリオワールドまで運行します。

(事務局・部長) リオワールドまでは子どもや若い学生がバスに乗って買い物に出かけたこともありましたが、最近は一気に減少してしまっています。先ほど申し上げたとおり、リオワールド停留所利用は4分の1程度で、瑞穂市内の停留所で1人か2人利用となっています。商業施設と駅を結ぶ路線ではありましたが、商業施設の衰退もあり利用者は減っています。

(梅田委員) 路線を考えるとときにリオワールド周辺の状況も考慮する必要があるかと思えます。

(会長〔議長〕) コミュニティバスとして運行するので、瑞穂市の税金を使うことになります。その時に本巣市まで運行する必要があるのかということだと思います。バスの運行できる道がないので、緊急措置的に来年一年間はそのまま運行しようということになります。

(奥田委員) さらに内容を深めてもらうためにも現在のみずほバスは中型を使用していますが、どのタイプのバスを使用していくのか、さらに本巣市でバスを運行することについて法律的にどうなのか説明を求めたい。

(事務局・部長) 現在はピンク色のバスを使用していますが、これは瑞穂市で購入して岐阜バスさんに管理してもらっているところです。穂積・リオワールド線につきましては、岐阜バスさんのバスをお借りして運行していただくこととなります。本巣市にバス停を置くことですが、議会の議決が必要になってきますが、他の自治体もバス停を置くことで議決ということとはほとんどないようです。本巣市からは運行につきましては了解を得ています。

(会長〔議長〕) 大型のバスよりも小型のバスを使用したほうが運行コストは少なくて  
すみますが、一方で平成25年度から3路線に再編するというのであれば、来年度は現状のバスをそのまま使用したほうが良いだろうという  
理解で良いでしょうか。

(事務局) はい。

(会長〔議長〕) まずは全体の大枠として、平成24年4月1日から路線バスである穂積・リオワールド線をコミュニティバスとして継続することにご賛同  
いただけますでしょうか。

(異議なし)

この点につきましてはご賛同いただきましたので、他に議論すべきこ  
とはコミュニティバスに変更することに伴い、現在は停車していない停  
留所3箇所も停車したらどうかということ、路線名を「瑞穂・北部線」  
にすることですが、この2つについて何かご意見ありますでしょうか。

(異議なし)

ではこの2点についてはご賛同いただきました。

次にバスの運行便数についてです。バスは岐阜バスのものを使用しな  
がら、費用負担のことを考えると9便から6便にしなければならないと  
いうことです。何かご意見ありますでしょうか。

事務局の提案としては、利用者数の少ない14:45発、18:40発のバス  
を減便にしたらどうかということでした。資料8の右上の表を見ていた  
だくと分かりやすいかと思えます。もう1便については13:00発ではど  
うかとの意見でした。その理由として、穂積・リオワールド線はみずほ  
バスの路線と比べて高齢者利用が少ないということ、通勤・通学の利用  
が多いというニーズを押さえないということでした。私自身のコメントと  
して後からみなさんにご意見いただければと思えますが、仮に13:00  
発の便を減便にすると、11:15発の後が16:10発と間が非常に空いてしま  
い、日中の利用が不便になります。コミュニティバスは移動手段が限ら  
れている人に対して、移動の足を提供する目的があるという面もありま  
す。他の自治体では、さらに少ない頻度で運行しているコミュニティバ  
スもあります。現在の運行時間を変更しないで便数を間引くだけでなく、  
現在は2時間弱の運行便数になっているところを、2時間半ほどの間隔  
で運行できる可能性はあるのか回答をいただいた上で議論したいと思  
います。

(岐阜バスより提供された6便案を準備)

(事務局・部長) 今回の見直し以降の方針について

4路線運行を3路線にせざるをえないと考えます。調査は何回か行った上で、公表をしていく予定です。調査を通してよく利用されている停留所は、穂積駅、リオワールド、穂積庁舎、牛牧団地、本田団地、南小学校となっています。団地に住むかたは、バスに乗り慣れていることもあり、利用者が多いということです。高齢者の利用は3割ほどで思ったよりは少なく、瑞穂市は車社会が定着しており、今後も高齢者は車に乗り続ける可能性があります。ぜひお願いしたいのは高校生の頃からバスに乗ってもらいたいし、高齢者のかたは60歳ほどになったらバスを積極的に利用してもらいたいです。バスに乗るということは癖をつけないとなかなか利用につながらないと思います。過去に停留所の要望があった古くからの集落付近はほとんど利用がありません。調査をした時は、本田・馬場線は2箇所、牛牧・十七条線は7箇所、鷺田・船木線は7箇所、穂積・リオワールド線は1箇所について利用者がなく、これらの停留所は普段からほとんどない状態です。PRについても限界はあると思います。将来を見据えてバス路線を決めることが必要であり、きちんとした路線が決まれば、停留所が増えることは問題ないと思います。路線の案につきましては総務課で検討しており、職員に意見を求める予定です。調査の報告もこの会議などで報告していきたいと思います。路線について何かご意見がございましたら、この会議中もしくは会議終了後でも結構ですのでお聞かせください。

(岐阜バスよりいただいた6便運行の案を配布)

(会長〔議長〕) 今後の方針について説明いただきました。配布していただいた6便案について確認したいと思います。1、2便については変更はなく、2便から3便は3時間、3便から4便は2時間、4便から5便は3時間の間隔があります。事務局案では最大で4時間の間隔があるということでした。この案で確定ではないわけですね。

(事務局) 1日6便運行にしたいということを岐阜バスにお伝えしたところ、これでどうでしょうかと提案されたものです。

(伊藤委員) 穂積・リオワールド線の停留所を3箇所増やすということでしたが、利用のない停留所は減らすということではできないのでしょうか。

(事務局・部長) 資料3を見てもらいますと、利用者が少ない停留所は七崎、居倉、田之上などです。路線自体を廃止するという考えもありました。いきなり廃止ということではなく、みずほバス全体を含めて検討することになりました。

(会長〔議長〕) 停留所を置いておくコストはそれほどかからないのではないのでしょうか。停留所が多くなれば運行時間が少し長くなるかと思いますが、路線の見直しの際に考慮することになるかと思います。

(迫田委員) 福祉バスは住民の福祉の向上ということで行政は認識されていますが、乗降客が少ないためにコストがかかるというマイナスの循環に陥っていると思います。利用者を増やすためにイベントをしている間は、無料にするということも考えられます。バスに乗るきっかけを作ることです。穂積・リオワールド線は循環線になっていますが、例えば「森」停留所の人がリオワールドに買い物に行くとすると、帰りを考えれば利用することはないと思います。循環型は不具合があるので、同じところを走る往復型も将来的には考えるべきではないかと思います。

(事務局・部長) みずほバスは循環型となっていて、右まわりと左まわりがあり1日9便、もしくは10便運行しています。往復便を考えたときに2箇所、利用客が多い場所が必要になってきます。さらに所要時間が長いと片道のみ利用するという状況になります。往復型も一つの案として考える必要がありますので、いずれにせよどちらの方法を採用するかは検討します。

(会長〔議長〕) イベントをきっかけにしてはどうかという意見もありましたので、こちらもお願いします。

(野田委員) 停留所までいくことに時間がかかる。幹線道路に行くまでの間に停留所を置かないのかという意見もあります。コミュニティバスは幹線道路だけ走るのではなく、集落の中を走らせてもいいのではないかとの意見も出ており、自治会連合会の中で要望をまとめながら、コミュニティバスについても活発に議論していきたいと考えています。老人会や女性の会など各組織の代表のかたもみえますので、みなさんの意見を聞けばもっといい案が出てくると思います。

(会長〔議長〕) コミュニティバスが普及したのは、東京の武蔵野市で「ムーバス」が大成功をおさめたことが基点となっています。成功した要因は、東京の都市で人口が多いということもありますが、細い道をバスが通ることで自宅からすぐに乗ることができたことが挙げられます。現在のバスでは大きくて細い道は入れないことがあるかもしれませんが、集落の中に入っていく検討が必要かもしれません。地域の中に入って行って、すべての意見を聞くわけにはいきませんが、ニーズを把握して重要度の高いものから取捨選択をしなければならぬと思います。利用者の立場からご意見をいただきたいと思います。

(西村委員) 日常生活において買い物に困っております。高齢者の中には自転車を利用できないのでどうしていくか悩んでいる人もいます。スーパーや大型商業施設を利用するために、何かいい方法はないかと考えているところです。

(棚橋委員) この会議に出席するにあたり女性の会のみなさんに意見を求めました。病院の前に停めてほしいという意見が多くありました。同居しているかたで病院に行く機会が多いのですが、大きな病院は遠いところにあるために近くで通いたいとのこと。停留所を移設してほしいという要望がありました。

(梅田委員) 通勤・通学利用には現状維持で、日中の利用者は時間に余裕があるかたが多いので、多少時間がかかっても多くの地域をカバーするなど、時間帯によって変更することが考えられます。

(藤橋委員) 少し話が外れますが、2市1町の交通安全協会協会長を授かっている立場から、交通事故は非常に多くその中でも高齢者の事故が多い状況となっています。北方警察署管内ではおよそ7万人のかたが運転免許証を持っています。そうした中で、本巢市の根尾地域のかたと話をしていたところ、ある年齢に達したら交通事故を未然に防止するという意味で免許証を返上したらどうかと間接的に提案してみました。車がなくなったら買い物も病院も行けなくなり移動手段が全くなく到底受け入れられないとのことでした。しかし、交通事故をなくすという意味ではやらなければならないことだと思います。そういった意味でもコミュニティバスというものはできるだけ細かく路線を組み、免許証を返上した高齢者には無料で利用することができるようにしてもらいたい。市長のあいさつで申されたとおり、住民福祉という面でも重要ではないかと思えます。

(会長〔議長〕) 地域住民の意見を聞けば、まだ利用率向上につながる可能性はあると思います。何かコメント等ございますか。

(意見なし)

では、9便運行を6便運行にすることについて何かご意見ありますか。減便については岐阜バス案のようにできるだけバランスが取れるよう、時間間隔を均等にしながら、昼間の便については少し薄めにするという方向でよろしいでしょうか。

(異議なし)

今回の議案については承認ということになりました。

全体を通してのコメントをしたいと思います。

今回のようなバスの検討というものは大変難しいと思います。さきほど利用者のかたから意見をいただきましたが、利用が少ないのはニーズ

を把握していないからだと思います。そのためサービスの形にまだ問題があるのではないかということです。路線図を見ていただくと、重複する路線がありますので、検討していただく必要があります。他には、貴重な税金を投入している上で、どれだけ高いサービスを提供できているかということです。最終的に必要となるのは、運行効率がうまくいかないといけないことです。この2つのバランスで決まることを考えますと、分けて考えることが必要になってきます。

瑞穂市のように面的に大きい市では、メリット、デメリットがありますがデマンドバスといったことも考えられます。

こういった検討を専門に扱っているコンサルティングのかたにご意見を聞きながら進めていくことをお勧めします。以上の点について事務局で検討していただけたらと思います。

他の自治体ではもっと時間に余裕がない状況で変更しているところもあるということを考えると、時間的にいろいろなことができると思います。例えば、ワークショップを行うなど考えられます。穂積・リオワールド線の今回の状況を機に、全体を見直すチャンスだと思います。

(古田委員)

穂積・リオワールド線の方向性は見えたかと思います。今後の見直しの方針で利用促進を考える必要が十分あります。地域のかたがどう思っているかが重要です。住民のかたの声を生で聞いていただきたい。地域のかたが自分たちのバスだという意識を持つことが存続につながると思います。また、中部運輸局では出前講座を行っております。小学校に行って公共交通の話をするのですが、子どもはバスの利用方法が分からないという状況ですので、この子たちにも利用していただくようにしてほしい。職員も利用することが必要ではないかと思います。

(山田委員)

この会議を2年間行っている中で、市ではどこを改善したらよいか等把握していると思います。それを基に路線を引き直すことが必要です。幹線道路沿いでも住宅が少ないところでは、バスを走らせても利用はないと思います。広報、PRは常に行っていただきたい。地域のニーズに合わせた輸送体系を考える必要があります。例えばある地域では乗合タクシーにするなどがあります。また、どの道を幹線道路にするかを決めて運行することも必要です。高山市の広報を見たときにアンケート用紙がついていました。市民のかたがいつでも意見を書いて市役所に届くようになっておりいい方法だと思います。また、先ほど藤橋委員がおっしゃいました免許証を返上した高齢者は無料でバスに乗ることができる取り組みは、他県の自治体で実施されているところがあります。

(富田委員)

地元の中に入り込んでニーズを把握するという利用促進対策を岐阜バスの方ではなかなかやってこなかったことがあります。路線バスの状況

は全国的に見て特に地方都市において非常に厳しい状況にあります。最近、廃止になった路線もあるのですが、その後問い合わせがほとんどなかった状況でした。住民の中には路線バスがなくなってしまうことをある程度覚悟しているかたもいるのかなと思います。こういった会議を通してご意見を聞ける場を大切にしたいと思っております。この瑞穂市やその周囲には岐阜へ行くバスもありますので、広域的に考えてコミュニティバスとうまく連結させていくことが必要かと思えます。

(三ツ村委員) 私自身、いろいろな所で公共交通会議に出席して意見を聞いておりますが、同じ意見も多くあります。この意見をどうしていくのかということだと思います。地域の中で高齢者や体の不自由なかたがどれだけいるのか、それぞれの地域で特色があります。それぞれ意見を集約する際に、高齢者を中心にするのか、体の不自由なかたを中心にするのかを決めていただいて、停留所を変更等していただきたいと思えます。簡単な作業ではございませんが、いい路線を作っていくべきだと思います。

(澤原委員) 14便から9便、そこからまた6便に減便することで、利用者はさらに減少することが予想される中、いかに利用していただくかが重要です。高齢者の中には自分の家の近くなら利用したいというかたもいます。提案として各自治会ごとに一つ停留所を決めてもらって、そこを巡回するという方法もあると思えます。もちろんすべてを回することはできない前提ではあります。

(会長〔議長〕) 市民のみなさんに考えていただいて、責任を持っていただくことをこれからの公共交通には必要かと思えます。今日のご意見を参考にしていただいて今後に活かしていただきたいと思えます。

(事務局・課長) 本日は熱心な議論をいただきまして、ありがとうございました。これで第2回瑞穂市地域公共交通会議を閉会します。